

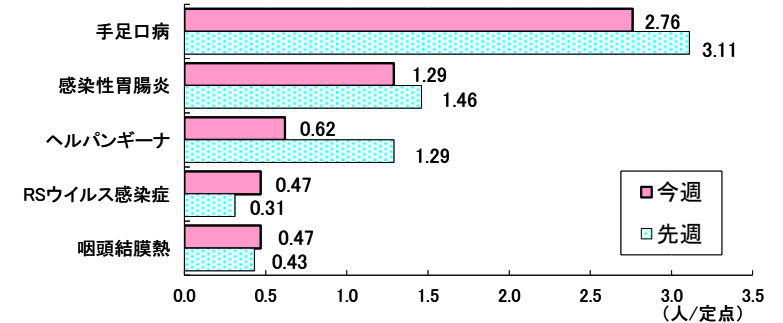


【第32週の発生動向】

<定点把握対象疾患(週報)・前週比>

- 手足口病は、県全体で11%減少しています。保健所別では、大館、能代、秋田中央で増加、秋田市、由利本荘、大仙、横手、湯沢で減少しています。
- 感染性胃腸炎は、県全体で12%減少しています。保健所別では、能代、秋田中央、横手、湯沢で増加、秋田市、大館、大仙で減少しています。
- ヘルパンギーナは、県全体で52%減少しています。保健所別では、北秋田、由利本荘で増加、秋田市、大館、能代、秋田中央、大仙、横手で減少しています。

秋田県の定点医療機関における上位5疾患(今週)の発生規模



発生報告

<五類定点対象疾患(週報)>

疾患名	秋田県			秋田市			大館			北秋田			能代			秋田中央			由利本荘			大仙			横手			湯沢		
	第31週	第32週	増減	第31週	第32週	増減	第31週	第32週	増減	第31週	第32週	増減	第31週	第32週	増減	第31週	第32週	増減	第31週	第32週	増減	第31週	第32週	増減	第31週	第32週	増減			
RSウイルス感染症	0.31	0.47	↗	1.00	1.29	↗															0.25	↗	1.00	2.00	↗	0.25	↘			
インフルエンザ	0.07	0.06	↘		0.09	↗																0.14	↗			0.80	0.20	↘		
咽頭結膜熱	0.43	0.47	↗	0.43	0.29	↘															0.25	0.75	↗	0.33		↘	1.25	1.50	↗	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.43	0.35	↘	0.43			0.75	0.50	↘				0.33		↘				0.25	0.75	↗	0.50	0.75	↗		0.33	↗	1.25	0.75	↘
感染性胃腸炎	1.46	1.29	↘	2.43	1.57	↘	2.00	0.50	↘				2.00	3.50	↗	1.75	2.25	↗				0.75	0.25	↘	2.67	3.67	↗	0.50	0.75	↗
水痘	0.20	0.29	↗	0.29	0.14	↘	0.25		↘							0.25		↘		0.25	↗	1.75	↗	0.33	0.33		0.50		↘	
手足口病	3.11	2.76	↘	4.14	1.71	↘	2.50	6.25	↗				1.67	3.50	↗	0.25	1.25	↗	4.50	4.00	↘	2.00	1.25	↘	4.33	1.67	↘	6.25	4.75	↘
伝染性紅斑																														
突発性発しん	0.20	0.38	↗	0.14	0.29	↗	0.25	0.75	↗	1.50	1.00	↘				0.25		↘				0.25	0.50	↗		0.33	↗		0.75	↗
百日咳																														
ヘルパンギーナ	1.29	0.62	↘	0.43	0.14	↘	6.75	3.00	↘		1.00	↗	0.33		↘	1.75		↘		1.00	↗	0.25		↘	2.00	0.67	↘			
流行性耳下腺炎	0.11	0.09	↘				0.50	0.25	↘		0.50	↗				0.25		↘							0.33		↘		0.25	↗
川崎病																														
急性出血性結膜炎										*	*		*	*		*	*										*	*		
流行性角結膜炎										*	*		*	*		*	*										*	*		
細菌性髄膜炎																*	*													
無菌性髄膜炎																*	*													
マイコプラズマ肺炎	2.75	1.13	↘							3.00	4.00	↗	1.00		↘	*	*		3.00		↘	1.00	2.00	↗	5.00	1.00	↘	9.00	2.00	↘
クラミジア肺炎(オウム病を除く)																*	*													
感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)																*	*													

(注) 表の数値は、観測定点としている県内の医療機関から報告された患者報告数を、1定点当たりに換算した人数を示し、前週と比べて「↗」は増加を、「↘」は減少していることを示します。「*」印は、当該疾病に関わる定点医療機関が指定されていないことを、空欄は全ての定点で当該週における患者の報告数がなかったことを示します。



発生報告

<全数把握対象疾患>

・三類感染症の腸管出血性大腸菌感染症が秋田市保健所管内から2人、由利本荘保健所管内から3人、報告されました。

・五類感染症の侵襲性肺炎球菌感染症が大館保健所管内から1人、報告されました。

<全数把握疾患>

(人)

類型	疾患名	1週-31週		32週
		全国	秋田	秋田
一類	エボラ出血熱			
	クリミア・コンゴ出血熱			
	マールブルグ病			
	ラッサ熱			
	痘そう			
	ベスト			
	南米出血熱			
二類	急性灰白髄炎			
	ジフテリア			
	重症急性呼吸器症候群			
	結核	13296	66	
	中東呼吸器症候群			
	鳥インフルエンザ(H5N1)			
	鳥インフルエンザ(H7N9)			
三類	腸管出血性大腸菌感染症	1420	19	5
	コレラ	5		
	細菌性赤痢	92		
	腸チフス	22		
	パラチフス	9		
四類	E型肝炎	205	1	
	ウエストナイル熱			
	A型肝炎	184		
	エキノкокクス症	19		
	黄熱			
	オウム病	11		
	回帰熱	2		
	Q熱			
	狂犬病			
	鳥インフルエンザ(H5N1、H7N9を除く)			
	コクシジオイデス症	1		
	サル痘			
	ジカウイルス感染症	2		
	重症熱性血小板減少症候群	64		
	腎症候性出血熱			
	炭疽			
	チクングニア熱	2		
	つつが虫病	102	8	
	デング熱	116		

類型	疾患名	1週-31週		32週
		全国	秋田	秋田
四類	ニパウイルス感染症			
	日本紅斑熱	145		
	日本脳炎			
	ハンタウイルス肺症候群			
	Bウイルス病			
	フルセラ症	1		
	発しんチフス			
	ポツリヌス症	3		
	マラリア	27		
	野兔病			
	ライム病	12		
	リッサウイルス感染症			
	レジオネラ症	903	2	
	レプトスピラ症	9		
	オムスク出血熱			
	キャサナル森林病			
	西部ウマ脳炎			
	ダニ媒介脳炎	1		
	東部ウマ脳炎			
	鼻疽			
ベネズエラウマ脳炎				
ヘンドラウイルス感染症				
リフトバレー熱				
類鼻疽	1			
ロッキー山紅斑熱				
五類	ア메ーバ赤痢	651	2	
	ウイルス性肝炎(E型及びA型を除く)	172		
	急性脳炎	439	3	
	クリプトスポリジウム症	7		
	クロイツフェルト・ヤコブ病	117	1	
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	236	2	
	侵襲性髄膜炎菌感染症	16		
	侵襲性肺炎球菌感染症	2164	17	1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	341	9	
	後天性免疫不全症候群	824		
	ジアルジア症	37		
	先天性風しん症候群			
	梅毒	3252	4	
	破傷風	68		
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症			
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	54		
	風しん	54		
麻しん	169			
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	903	9		
水痘(入院例に限る。)	187	10		
播種性クリプトコックス症	81	1		
薬剤耐性アシネトバクター感染症	14	1		

トピックス

<夏季のつつが虫病>

秋田県は、夏季もつつが虫病が発生する地域です。夏のつつが虫病を媒介するのは、幼虫活動期が7月~9月のアカツツガムシという種で、大仙市以南の雄物川とその支流の河川敷に生息しています(図1)。アカツツガムシに吸着されると、その部分に**鋭い痛み**を感じる事が特徴です。

【症状と治療法】

病原体を持つアカツツガムシに吸着された5~10日後、体のだるさや頭痛、食欲不振、関節痛などを伴った高熱をもって発病します。その数日後には胸や背中、腹などに発疹が現れ、体のどこかにアカツツガムシに吸着された跡である1cmほどのカサブタが見つかります(図2)。発病早期に受診し、適切な治療を受けると通院治療で完治しますが、治療が遅れると重症化して数週間~数か月間の入院を要し、時には死に至る場合もあります。

病原体を持たないツツガムシに吸着された場合、上記のような症状は起こりませんが、吸着部位の痛みは生じ、皮膚炎を起こす場合があります。

【アカツツガムシの生息域】

アカツツガムシは、広い河川敷の中でも特に水際に近い所、あるいは大雨後に水没するような川岸までが好適活動域です。実際、近年発生した患者は全て水際のレジャー後に発病しています。

【感染を防ぐには】

ツツガムシはとても小さいため身体についても気がつかず、取り払うことができません。しかし、ツツガムシはヒトの身体に取り付いた後も、すぐには吸着せず、吸着後も病原体が身体に入るまでに6時間程を必要とします。そのため、次のような行動を心がけ、ツツガムシに吸着されないようにしましょう。

- 1) 釣りなどレジャーの際は、裸足での活動を選び、地面に直に座らない。
- 2) 河川敷から帰ったら、早めに着替えて衣類はすぐに洗濯する。
- 3) 帰宅後は速やかに入浴し、身体のみずみまで念入りに洗い流す。

洗濯するまでに時間を要する場合は、衣類をビニール袋に密閉しておいても良いでしょう。また1)~3)に加えて、効能書きに「ツツガムシ」と記載のある虫除けスプレーを使うことも有効です。それでも万が一、発熱などの症状が現れた場合はすぐに受診しましょう。その際、河川敷での活動があったことを医師に伝えることが重要です。

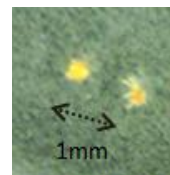


図1: アカツツガムシ幼虫(2匹)体長約0.2mm

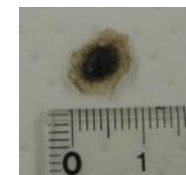


図2: つつが虫病患者の「刺し口」のカサブタ(発熱から10日後)

RAPIDs<topics> Report on Akita Prefectural Infectious Disease situation

<http://idsc.pref.akita.jp/kss/>



秋田県感染症発生情報

専門家向け情報

秋田県健康福祉部健康推進課 TEL: 018-860-1424/ FAX: 018-860-3821

秋田県感染症情報センター(秋田県健康環境センター内) TEL: 018-832-5005/ FAX: 018-832-5047

【注意報・警報の発生状況】

疾患名	注意報	警報
	保健所(発生規模)	保健所(発生規模)
手足口病	-	大館(6.25)、由利本荘(4.00)、湯沢(4.75)
ヘルパンギーナ	-	大館(3.00)

感染症発生動向調査における注意報・警報について(解説)

【警報・注意報の定義】

- 1) 警報: 大きな流行の発生・継続が疑われることを示します。
- 2) 注意報: 流行の発生前であれば今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性があることを示し、流行の発生後であればその流行がまだ終わっていない可能性がある(終息していない)ことを示します。

対象疾患	流行発生警報		流行発生注意報	対象疾患	流行発生警報		流行発生注意報
	開始基準値(人/定点)	継続基準値(人/定点)	基準値(人/定点)		開始基準値(人/定点)	継続基準値(人/定点)	基準値(人/定点)
インフルエンザ	30	10	10	百日咳	1	0.1	-
咽頭結膜熱	3	1	-	ヘルパンギーナ	6	2	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4	-	流行性耳下腺炎	6	2	3
感染性胃腸炎	20	12	-	急性出血性結膜炎	1	0.1	-
水痘	7	4	4	流行性角結膜炎	8	4	-
手足口病	5	2	-	伝染性紅斑	2	1	-